

昆虫標本館 一 所蔵標本の管理と活用について一

Curation and Utilization of the Specimens in the Insect Museum of NIAES

中谷至伸・安田耕司・吉松慎一*

Yukinobu Nakatani, Koji Yasuda and Shin-ichi Yoshimatsu

はじめに

農業環境技術研究所・昆虫標本館に収蔵されている標本は概算で約 120 万点にのぼる (図 1)。これは日本国内の研究機関では第 4 番目の規模である。これらの標本を有効に活用するためには所蔵状況を把握し、目的とする標本の検索が容易におこなえる必要がある。現時点ではこれらが満足に行われているとはいえないが、昆虫標本館で現在取り組んでいる標本管理について紹介する。

農業環境技術研究所 昆虫標本館の現状

昆虫標本館には明治 32 年以來の標本が蓄積されている。その多くは歴代のスタッフが研究目的として収集したものや、個人のコレクションが寄贈されたものである。そして、これらの標本はチョウ、コウチュウ、ハチ、ハエ、バッタといった目 (Order) ごとに大まかに整理されており、部分的にはさらに科 (Family) もしくは属 (Genus) などの分類群まで整理され配列されているが、全体的に見れば分類体系に沿った整理は不十分である。所蔵標本の中から特定のグループの標本を探そうとする場合、目、科といった分類群に沿って整理された標本棚から目的のものを探索することが多いが、それ以外の場所に納められている標本、たとえば、ある地域で採集されたものがまとめられている標本などについては、ひとつひとつの標本箱の中身を確認していく以外に方法がない。そのため、有用な標本が未発見のまま埋もれてしまっていることも考えられる。また、所蔵標本の種リストがほとんどできておらず、現状では標本の情報を十分に生かすための基盤が整っているとは言い難い。多数の所蔵標本がもつ貴重な情報を有効に活用するためには、未整理のまま残されている標本を分類・整理することが必要であることはいうまでもないが、既に同定されている標本をデータベース化し、現時点で利用可能な



図 1. 昆虫標本館内の収納棚

* 農業環境インベントリセンター 昆虫分類研究室

Insect Systematics Laboratory, Natural Resources Inventory Center

インベントリー, 第 3 号, p.53-54 (2004)

標本情報を早急に整備することが何より重要である。そこで、昆虫分類研究室では一般標本データベースの作成に着手した。

一般標本データベース

標本データベースを作成するにあたって、それぞれの標本を個別に識別するため、目を表す2桁+7桁の9桁の固有の番号を標本ごとに与えた(図2)。標本データベースにはその標本の種名、採集された場所、採集者や年月日の基本的な情報のほか、乾燥標本か液浸標本かといった標本の種類、その標本個体の性別などの情報を入力できるようになっている(図3)。今のところこのデータベースは作成が始まったばかりで、およそ1,000点の標本について入力完了したのみである。今後、データの充実に向けて作業を進めてゆくが、標本の所蔵数は膨大であることから、同定されているものだけを入力するのですら多くの労力と時間が必要である。

また、標本がどの棚のどの箱に収納されているかといった収納場所に関する情報がデータベースから参照できれば標本の探索が容易になるが、実際には標本の収納場所はしばしば変更されるため、そのような状況を想定した情報管理のシステムを考える必要がある。もっとも、所蔵標本の整理が進めば、それだけでも標本の探索は容易になることから、標本整理こそが昆虫標本館の課題といえる。



図2. 標本管理番号ラベル



図3. 一般標本データベース
入力画面

標本の将来的な活用の可能性

標本はその個体の採集地点の過去の環境に関する情報を潜在的にもっており、今となっては入手不可能な情報の貯蔵場所といえる。すなわち、生息環境が限定されている種については、標本データを参照することによって、採集地の当時の環境を類推することができる。ただし、単一の保存機関だけでは標本情報の密度が低く、地域的、時間的にも偏りがあることから、いろいろな環境や地域、時代に適用することは難しい。将来、国内外の主要な研究機関で標本データの共有化が進み大規模なデータベースが構築されれば、標本情報をとおしてさまざまな地域の環境条件の変動を解析できるようになると期待される。

問合せ先

農業環境インベントリーセンター 昆虫分類研究室 中谷至伸

電話：029-838-8348, FAX：029-838-8354, E-mail: nakatany@niaes.affrc.go.jp